

温古知新②4 南総里見八犬伝 5 1

笑顔礼讃西東

NPO法人未来塾 楽しい俳句教室 (神奈川県・横浜市) 2 3

原田要三様 (群馬県・前橋市) 4

祝・10周年 特別企画 ④ 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10

詠み人スクランブル(10年間続けている事は?) 11 13

新潟ぶらり / 自家焙煎珈琲ミールクラフト 13

お客様の「リレーエッセイ」 江葉恭子様 14

ニュースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」歌人 北山あさひ様 16

10 October Vol.70

* 「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

喜怒哀楽

詠み人応援マガジン
詩歌俳柳壇 ニュース
The 10th anniversary

温古知新②4

「南総里見八犬伝」5

追手によってばらばらになってしまった、信乃・庄介・現八・小文吾・道節の五人。その後の行方は……。

荒茅山の難を脱した小文吾は、親兵衛のいる行徳に帰ることに。途中、船虫という悪女の罠にはまり、千葉家の宝を盗んだ罪人と明らかになり、一度は難を逃れます。しかし、千葉自胤の石浜城に招かれた小文吾は、家老の馬加大記に留められ、城から出られなくなってしまいました。その一方、船虫は何者かの手助けにより逃亡してしまいます。その間に小文吾は、実は大記が嵐山盗難の黒幕であったことを知り、秘密を知られた大記は小文吾に毒を盛りますが失敗。刺客も差し向けますが、ちょうど石浜城に来ていた女田楽の芸人・旦開野に助けられます。小文吾のもとに忍んできた旦開野は、うまく逃げられたら妻にして、と迫り、小文吾は受け入れました。その夜、旦開野は小文吾のもとへ馬加大記の首を持ってやってきます。女田楽旦開野とは仮の姿。実は追放された粟飯原胤度の妾が相模国大阪で生んだ男子、犬阪毛野だった

のです。混乱に乗じて小文吾と毛野は城を脱出しますが、川を渡るうちに離れ離れとなってしまいました。

一方、痣と珠を持つ仲間を探して諸国を放浪していた現八は、下野国の茶屋で、その先にある庚申山に化猫がいて人を襲うこと、地元第一の勇士・赤岩一角が化猫退治に出かけ、帰ってきたから人が変わったようになったという話を聞きます。現八は弓を買って山に入り、化猫と遭遇。現八の放った矢は化猫の片目を射抜きました。さらに山奥に進んだ現八は、赤岩一角の幽霊に出会います。かつて山に入った一角は化猫に殺され、化猫は一角に化けて山を下ったとのこと。幽霊は現八に、息子角太郎を助けてくれと頼んで消えてしまいます。

実は化猫の偽の赤岩一角。急に片目を患います。これを治すため、生肝と心臓を求め、偽一角と後妻の船虫は、角太郎のもとを訪れお腹の大きくなった角太郎の妻雛衣の命を求めました。孝心に迫られて窮した角太郎を救い、みずからの潔白を明かすために割腹した雛衣の胎内からは、かつて誤飲した「札」の珠が飛び出して偽一角を撃ちます。角太郎は現八と共に、正体を現した妖猫を退治。名を大角と改めて犬士の一人に加わったのでした。

五回目にして、やっと八犬士全員の登場。次回は何と、越後の国に舞台が移ります。

(古川久美子)

NPO法人未来塾
楽しい俳句教室
指導 金子敦様
(神奈川県・横浜市)

9月18日(水)、横浜市・本郷台の「あーすプラザ」にて開催されている「NPO法人未来塾 楽しい俳句教室」にお邪魔しました。

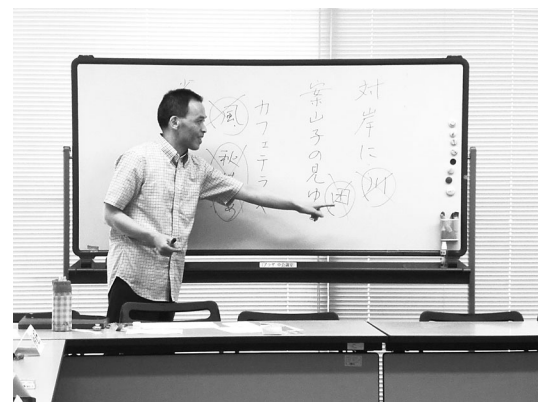
2011年7月の開講当初は1教室だったものの、好評につき現在は月曜と水曜の2教室に増え、本日は45回目。指導にあたる金子敦さんは、1985年に句作を始め97年の「砂糖壺」30句で俳壇賞を受賞した50代の俳人です。入会してまだ8ヶ月の方を筆頭に、ほとんどの方が初心者という当句会、さてどんな展開になるのでしょうか。

本日は、お2人欠席の14名の参加で、当季雑詠2句を提出。5句を選び、うち特選として選んだ1句を各人が講評します。また、金子さんが佳作、入選、特選の句を解説します。

台風過富士は容を整へり 林勝洋
金子：台風が過ぎ去ったあと、富士山



▲お優しいアッチャンこと金子敦さま



▲俳句の省略について解説する金子さん

が容を整えた、という着眼点がいいですね。台風が過ぎると空気が澄んで、何もかもくつきりとよく見えるということ。台風「過」が少し苦しいかな、ということ佳作にしました。

作者：「一過」にすると字余りになるので、「過」にすることで「過ぎ去った」という意味と「災い」の「過」の意味として、一方では台風が過ぎたのに、一方ではまだ台風の最中で大変、というその両方を言えるのではないかと思っただけです。

野良猫の一夜の宿と萩の花 河本真由美
金子：芭蕉の句「一家に遊女も寝たり萩と月」を連想しましたが、この句は野良猫。ギャップがあってももしろいですね。

作者：その句を知りませんでした。朝、ウォーキングをしていたら萩の下から野良猫が出てきて、あら、こんなところに寝ていたのね、と。

金子：猫の句といえば、河本さん。自分が好きなものを詠むことは、俳句の上達につながるのでもいいこと。猫の句だったら誰にも負けないわ、というくらいになつてくださいな。

待ち合はせの刻とうに過ぎねこじやらし 篠田寿美子
選者：待ち合わせの時間が過ぎているのに、相手の人はちっとも現われてくれない。その少しさみしい気持ちと、「ねこじやらし」がほどほどに効いていい/デートの句なんじゃない?(笑)
作者：「ねこじやらし」を使って句を作ったのです。先生は「俳人は嘘をついていい」とおっしゃったので、本当は待ち合わせをしたわけではないのです。

湯の街の和服姿や秋日傘 大貫孝男
金子：バシッと決まって句の形はとてもいいのですが、いかにも、という感じで佳作にしました。
太陽の秋のサインが届く今朝 坂巻玲子
金子：太陽の光が、まるでサインのように届いたということ。清々しさもあっていいと思います。

アルプスの月母と見し疎開の日 丸山和子
金子：中七が苦しいので、語順を変えて「疎開の日アルプスの月母と見し」にすると、すんなりと通り、情感のあるいい句になります。

作者：山梨に疎開したときのこと。手折った芒を飾り、アルプスの方角に上がった月を見ながら、母が私たちに「戦争で誰も死ななくてよかったね。こ

れからきつといいことがあるよ」と言った言葉が忘れられない。母が一番苦しんだ時代で、自分に言い聞かせていたのだと今になるとわかるのですが、それをどう表現していいのやら...

銀皿にパセリの残る星月夜 金子敦
選者：銀皿とパセリのコントラストが目につかぶ、きれいな情景。星が見える素敵なレストランで食べているのだからなあと思像させる。
金子：すばらしい鑑賞をありがとうございます。

稲架かけり農夫の背中夕焼けて 石川スギ
選者：とてもきれいな情景が詠まれているが、季重なりが気になった。
金子：夏の季語「夕焼けて」を、「夕映えて」にすれば、季重なりが避けられます。

作者：先生、ありがとうございます！ひとり立つ小公園の秋深し 高橋虎彦
金子：「ひとり・小・秋深し」と、マインスイメージを重ね過ぎてしまいました。作者の感慨が切々と伝わってきますので、佳作にいただきました。
こほろぎのころころ声に風かろし 山下長生

金子：軽快な表現で、リズム感がとてもいい。
作者：カ行の音が多すぎるかと思ったのですが...
金子：カ行の頭韻になっているので、それが逆にいい。なかなかここまで揃えるのは難しいですよ(笑)。
暮洗ふブラシで手紙書くやうに 長井直子
金子：特選を迷った作品。「手紙書くや



▲月2回の俳句教室で着実に上達される受講生の皆さま

うに」で、心の中で亡き人に手紙を書いているという情感が伝わってきました。選者：亡き人を想い、ごしごしじやなく、大切に丁寧に墓を洗っている、その作者の優しさを感じる／「手紙書くやうに」で、自分も元気にやっているよ、ということ伝えてる。

質問：先生、この句の季語は？

金子：「墓参」の傍題として「墓洗う」が季語。墓についた苔を掃除するという意味の「掃苔」も「墓洗う」と同じ意味の季語。「墓参」は秋の季語なので、春には使えません。

秋拾れ合ふ人に折目あり 石田哲雄
金子：「折目あり」がうまい。テクニシャン。

選者：着物のたたんだ折目と、人の折

目正しさ、2つの意味。なかなかこうは詠めない。

食すこといまだ無きまま通草の実 綿引明子

金子：やや説明的になってしまったのが残念ですが、素直な詠みぶりでも好感が持てます。

干柿の廊下に影のすき間なく 中村彰克

金子：いいところを見えますが「干し柿」と「影」を離さずに続けたいところ。「干し柿の廊下」では違和感があるので、「干し柿の影すき間なき廊下かな」ではどうでしょう。

選者：谷内六郎の絵を彷彿とさせるような、日本の原風景。軒下に干し柿がびっしりとある、という句はよくあるが「廊下に影のすき間なく」と詠んだところがうまい。

赤蜻蛉帽子に塔せて来た人 林勝洋
金子：ユーモラスな句で、「塔せて」の字をもってきたところもユニークいいですね。

選者：何がとまっても気にしない、といった飄々とした人柄と、蜻蛉も安心して止まっている様子が伝わってきます。

コスモスや一途な恋の風立ちぬ 佐々木道子

金子：上五中七までは、やや少女趣味的な雰囲気ですが、「風立ちぬ」という言葉によって、句が引き締まりました。

作者：これは宮崎駿の映画「風立ちぬ」を見ての句です。

華燭の宴エイトビートで始まりぬ 酒徳せつ子
金子：「華燭の宴」という、古式豊か



な言葉に対して「エイトビート」。ミスマッチでもしろいのですが、季語がないのが残念。

弦月や緩まぬやうに古紙結ぶ 長井直子

金子：弦月＝三日月のこと。古紙、この場合は新聞かな？を緩まないように紐で結んでいるさまを、弓を張ったような月という意味の季語「弦月」をもってきたところがうまい。

雨やんで庭寂かなり十三夜 篠田寿美子

金子：十三夜の季語もピタリと決まった、とてもきれいな句で、文句なしの大丸。

◎特選 敬老の日やどら焼きの餡の高 岩本なを美

金子：「敬老の日」を、あえて明るく「どら焼きの餡の高」をもってきて表現したところがすばらしい。うれしいと言わずに「餡の高」という物で喜びを表

現するところが俳句。めでたい句でもあり、今日の特選に選びました。

選者：敬老の日立派などら焼きをもらった作者。たっぷり入った餡にうれしさと、そんなに食べられるかしらという持てあまし気味の、両面が感じられる。みんなが、自分が元気で歳を重ねていることを喜んでくれているといううれしさが滲み出ていて、それを餡のかさ、と目をつけたところがうまいと思った。

★「先生を表現するにふさわしい、清廉潔白」という言葉を今日したためてきました」という受講生がいらつしやる通り、指導にあたる金子さんは、お一人おひとりに対し親切丁寧な指導をされ、その誠実なお人柄を慕って遠方から教室に通う敦ちゃんファンも多いと聞きます。お笑い担当の方あり、学級委員的な方あり、親子で参加されている方や竹馬の友同士で参加されている方もありという、安心して学べるこの句会。愛情ある指導とそれに呼応する吸収力が噛み合って、ますます皆さんが腕を上げられることは想像に難くありません。

(木戸敦子)

▼終わってからの
お食事会では
様々な話題が！



原田要三様

(群馬県・前橋市)

本年3月、第一句集『原田要三句集 良寛の風』を上梓した原田要三さんにお話を聞きました。

◎句集上梓のきっかけは？

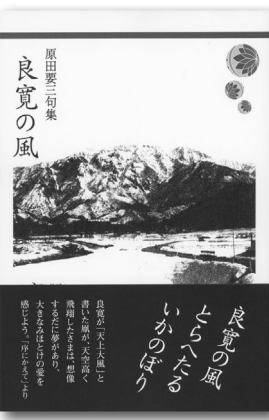
俳句を始めて15年。選を受けて活字になった俳句が3000句を越えたこと、喜寿を迎えたこと、そして昨年第50回群馬県文学賞を受賞したこともあり出版しました。でも、一番の動機は、今までの作品を過去のものとして一線を画し、新たな俳句をめざしたかったということです。

◎15年という退職後に俳句を？

スズキ(株)を退職後、これでゆつくりと本が読めると三食付の読書三昧。その内に妻が夜中になると具合が悪くなり、日赤で精密検査を受けたところ、ほとんど家にいなかった私が家にいることでの心因性の病気だと診断されたのです。これはまずい！と外に出るようになったわけです(笑)。9月からN



▲常に笑顔の絶えない原田要三さま



◎素敵な方でなかったら読まなかったわけですね？
 そういうことです(笑)。在職中は、土日もないようなモーレツサラリーマンでしたので、俳句を楽しむ余裕は考えられませんでした。新潟に赴任して6年間は、お酒をたしなむことが多くて、あと1年新潟勤務が続いたら体をこわしていたかもしれません。
 ◎それにしても上達が早いですね！
 実は秘策があるのです。現在、20冊の歳時記が手元にあります。兼題が出たときは、その兼題に関するすべての例句(20冊の歳時記と句会の入選作品すべて)が入力してある私製の歳時記により、自作をチェックすることができます。3冊の歳時記からスターとし、15年間の蓄積によつて出来上がったものです。
 きっかけは、へ立春や園児の膝に絆創膏の句を、新人ということまで先生が「春めいた感じがでている」と褒めてくれたのですが、近くの女性がすかさず「私が前に作った句に似ている」と眩くのが聞こえたのです。そうか、人と似た句を作ったらダメなんだ。ならば、できるだけ多くの俳句を読んで、人と違う句を作らないと！とその時強く思ったのです。
 ◎類句を極力排除するということですね？
 今では、他人の句ばかりではなく、自分の旧作との模倣を排除するのにも役立っています。類想句を上手に作るに句会で点は出ますが、進歩はないし、本当の俳句の楽しみを失ってしまうので、類想排除を心がけています。だから、自分の出す作品は自信を持って出せるのです。今、考えると、これもそのおばさんのおかげですね(笑)。
 ◎これからは？
 今は、年金で自分のしたいことをしている有り難い身で、漱石の小説にある高等遊民の小型版というところ(笑)。この歳になると、今日で最後かも知れないし、新しいことはもう難しいので、基本は俳句でいきます。そして、たとえ病を得ても、俳句ができるくらい俳句に対する執念を持って生きたいと思つています。あと、これは夢でもありますが、俳句が入った随筆が書けたらいいな、素敵だなと思つていますね。
 『原田要三句集 良寛の風』より
 風邪に寝て剣豪小説枕辺に
 棒稲架の香の人臭き出羽平
 穴まどひ惑ひしほどに慥かれけり
 綿虫飛ぶため息捨てて来し湖畔
 披露宴までの小春の待ち時間
 ★昨年お会いした際の、豪放磊落な印象から一転。じっくりお話を聞きますと、ID俳句と称したいほどの緻密なデータの蓄積と分析、そしてそこに費やすご努力は、もはや頭脳派の域。根底に、現状に甘んじることなく、さらに自分なりに超えられるものを希求したいという強い意志を感じる。素敵なおばさんがいて、類想を指摘したおばさんがいて、その点と点をつないだ延長線上に、今の原田様がある。そして、日々の弛まない研鑽と今の充実ぶりが、そのお顔にしっかりと現れている。
 (木戸敦子)

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵な方でなかったら読まなかったわけですね？
 そういうことです(笑)。在職中は、土日もないようなモーレツサラリーマンでしたので、俳句を楽しむ余裕は考えられませんでした。新潟に赴任して6年間は、お酒をたしなむことが多くて、あと1年新潟勤務が続いたら体をこわしていたかもしれません。
 ◎それにしても上達が早いですね！
 実は秘策があるのです。現在、20冊の歳時記が手元にあります。兼題が出たときは、その兼題に関するすべての例句(20冊の歳時記と句会の入選作品すべて)が入力してある私製の歳時記により、自作をチェックすることができます。3冊の歳時記からスターとし、15年間の蓄積によつて出来上がったものです。
 きっかけは、へ立春や園児の膝に絆創膏の句を、新人ということまで先生が「春めいた感じがでている」と褒めてくれたのですが、近くの女性がすかさず「私が前に作った句に似ている」と眩くのが聞こえたのです。そうか、人と似た句を作ったらダメなんだ。ならば、できるだけ多くの俳句を読んで、人と違う句を作らないと！とその時強く思ったのです。
 ◎類句を極力排除するということですね？
 今では、他人の句ばかりではなく、自分の旧作との模倣を排除するのにも役立っています。類想句を上手に作るに句会で点は出ますが、進歩はないし、本当の俳句の楽しみを失ってしまうので、類想排除を心がけています。だから、自分の出す作品は自信を持って出せるのです。今、考えると、これもそのおばさんのおかげですね(笑)。
 ◎これからは？
 今は、年金で自分のしたいことをしている有り難い身で、漱石の小説にある高等遊民の小型版というところ(笑)。この歳になると、今日で最後かも知れないし、新しいことはもう難しいので、基本は俳句でいきます。そして、たとえ病を得ても、俳句ができるくらい俳句に対する執念を持って生きたいと思つています。あと、これは夢でもありますが、俳句が入った随筆が書けたらいいな、素敵だなと思つていますね。
 『原田要三句集 良寛の風』より
 風邪に寝て剣豪小説枕辺に
 棒稲架の香の人臭き出羽平
 穴まどひ惑ひしほどに慥かれけり
 綿虫飛ぶため息捨てて来し湖畔
 披露宴までの小春の待ち時間

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

◎素敵があつたのですね
 昔、家の前に素敵な未亡人のおばさんが住んでいて、なぜか高浜虚子の歳時記をくれたりと、かわいがつてくれました。当時はその歳時記を読むだけでしたが、そのことが、五七五のリズム感を養ってくれたのかもしれない。

The 10th anniversary



喜怒哀楽書房が
この10月で10周年を
迎えることを記念した
特集ページ。
最終回となる4回目は、
本戸敦子に本誌「喜怒哀楽」
を発行している理由、
制作の楽しみ、
これからのことを
インタビューしました。

◎本情報誌「喜怒哀楽」、最初は本戸さんが作っていたのですよね!?

そのことにはあまり触れずに:(笑)。慣れないMacのソフトを使って何とか作りあげたものの、このデータでは印刷できないと夜中に現場に呼び出されたこともありました。

◎「喜怒哀楽」を発行するに至ったきっかけを教えてください。

まだ誰もお客さまがいらっしやらない当初、従来にはない発想を、ということで、会社主体のダイレクトメールのような売り込みではなく、お客さまのためになる情報誌を、それも無料でお届けしたらどうだろう、ということでお創刊しました。

副題として「詠み人応援マガジン」と銘打ち、「お客さまとの双方向のコミュニケーション」と「新潟発信」をテーマに、創刊時の4ページから現在の16ページへ、アンケートの返信も5通程度から、現在は400通近くへと、お客さまとともに成長させていただきました。本当に感謝あるのみです。読んでくださる方、アンケートやご投稿くださる方あつての紙面ですから。

◎毎回びつりと書かれたアンケートを多数いただきます

字だけで「○○さまだー!」とわかる方、近況を作品にしてお寄せくださる方、いただくアンケートから、お客さまの息づかいが聞こえてきます。弊誌が届くことを心待ちにしてくださる方が少なからずおられ、「そんなもの送らないでください」と言われた当初と比べると、10年続けることの重みを感じます。

ただ、「無料でもらって会社は大丈夫なの?」と心配くださる方や、「無料だと申し訳ないからお断りします」と、おっしゃるお客さまもいらして、本当は読んでいただきたいのにと、いろんな矛盾を抱えていることも事実です。

◎10年一区切りですね。これからは?

この10月号がお手元に届くころには、すぐ隣ではありませんが、引越しを控え、新しい環境で仕事をしている予定です。新天地で11年目の新たな一歩を踏み出します。

お客さまには「喜怒哀楽書房」の方が馴染み深いかもしれませんが、当社の社名は正式には「株式会社ミューズ・コーポレーション 喜怒哀楽書房」といいます。ミューズMuseは、ギリシャ神話の芸術の女神のことであり(すみません)、社長である本戸敏雄が、女性の能力を活かせる会社を念頭に名づけました。

M create Market
U Unique concept
S Sensitive mind
E Epoch making
S customer Satisfaction

——今までにない新しい市場を求めて 独創的な発想と感性豊かな心を持ち常に新しい時代の切り口を模索し続け お客さまとともに成長していきます——

これが、創業の想いです。

私たちは、お客さまに喜んでいただけることを第一に、その喜びを自分たちの喜びとして分かち合える人間になりたいと思っています。でも、そのため

には、働く私たちスタッフが喜びや感動を提供できる人間として、より成長していかなければなりません。関わる人すべてに、あの会社があつてよかった、あの人がいてよかった、と喜んでいただけるような会社・人になつていきたいと考えています。

◎喜怒哀楽のめざすところは?

10年前は、全国のお客さまが一堂に会することは難しいので、この「喜怒哀楽」の紙上で交流できる場が作れたらと思っていました。次第に、お客さまの元を訪ねたり、新潟のスポットを紹介したり、古典に詳しい者が解説するコーナーができたりと、少しずつ紙面も充実しました。取材先で確かに録音したはずが、レコーダーに入っておらず青くなつたこと、皇居内で行われた句会で、有るはずだったコピー機がなく、選句用の紙をコピーしに最寄りのコンビニまで皇居内を延々と走つたこと——いろいろありました。

紙面だけではなく、直接お客さまとお会いして時を共にすることで、より親しみがわき、人間ついでいいなという思いにさせてくれます。お会いした方どなたも、自分の生をしつかりと生きていらして、お一人おひとりがみんないいのです。それは、当社スタッフにも言えること。誰も欠くことができないメンバーです。今後も、この「喜怒哀楽」を媒介に、お客さまとスタッフの全員参加、人間讃歌の紙面をめざします。どうか、今後も紙面を盛り立ててくだされば幸いです。

(インタビュー:菅真理子)

投稿作品

川柳

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめきり2013年11月15日まで
※作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 五七五生活に色を添えている
高橋久仁子(福岡県)
- 2 おかえりに居間に鎮座すほとけさま
阿部澄江(宮城県)
- 3 冷奴の角で死んでもいい猛暑
丸山芳夫(東京都)
- 4 悪餓鬼も年をとつたなクラス会
宮崎正男(群馬県)
- 5 園児バス見送り長い立ち話
石原岳(群馬県)
- 6 風鈴に初秋あきを伝える風がある
坂元正憲(東京都)
- 7 千の風孫に歌えと言いつ残す
大森一甲(兵庫県)
- 8 泣きに出てきれいな月に抱かれてる
小山恵美子(大阪府)
- 9 御来光見るならやはり富士と決め
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 10 頑張れと言われて募るプレッシャー
細川光子(栃木県)
- 11 ダム渇水雨平等に降つてくれ
菊地可寿子(新潟県)
- 12 減反に瑞穂の国の枯れ尾花
藤沢健二(千葉県)

- 13 どこへでも行けと哀しい嘘を言う
竹村穂夫(大阪府)
- 14 年金者インフレに節約ミクス
原崇雄(埼玉県)
- 15 地球儀が病氣したのか熱高い
大江秋月(兵庫県)
- 16 ひまわりも暑さきびしく目を回す
近藤はつみ(福岡県)
- 17 一夜づけの詰め込みでは役たたず
原田英一(千葉県)
- 18 エンディングノート途中で筆を置く
近藤富夫(東京都)
- 19 旅帰り花のピンチに詫びて水
大岩歌子(岡山県)
- 20 「遺産」得た人波に酔い行つただけ
奥那於子(大阪府)
- 21 水浴びの目白にしばし歩をとめる
奥田音野(香川県)
- 22 難解匂いささか俺も歯が立たぬ
楠瀬美香(高知県)
- 23 どん底で妻の笑顔がいやしてる
諸橋文男(新潟県)
- 24 親切が少し足りぬとわれを責め
守屋高雄(岩手県)
- 25 豊かだが淋しくなつたおつきあい
藤井碩子(山口県)
- 26 一針に武運を祈り征きしまま
久本にい地(岡山県)
- 27 底辺の声無き声をこそ拾え
安田翔光(香川県)
- 28 大暑でも月見草咲き秋を呼ぶ
藤田三四郎(群馬県)
- 29 中東で又振る気かない袖を
村岡盛英(群馬県)
- 30 今無事に生きていること摩訶不思議
大橋絵代(千葉県)
- 31 宇宙力オスブレイ消す老怪人
仲里達也(沖縄県)

- 32 終戦後リンゴの歌に励まされ
高松秋良(群馬県)
- 33 寂しさに耐えて不便さにも堪える
藤井北灯(福岡県)
- 34 猛暑にて老いの信号点灯す
神和子(千葉県)
- 35 うとうとと夢の中への忘れもの
鈴木義雄(福島県)
- 36 年を経て老いという字が愉しめる
田澤宏(新潟県)
- 37 真つ青な空と海とのオラが里
潮田春雄(千葉県)
- 38 泣き顔をエンドロールに救われる
岡本恵(茨城県)
- 39 老眼鏡はずして見れば皆な美人
山崎一嘉(愛媛県)
- 40 韓ドラに癒されている老介護
竹森桂子(香川県)
- 41 白球セーフ全開脚のしなやかさ
南喜美子(千葉県)
- 42 コンビニにあまりペンツは止まらない
高柳閑雲(愛知県)
- 43 頬撫でる風は季節をつれてくる
山口千鶴子(東京都)
- 44 夏ごろも祇園にかるい下駄の音
片岡湖風(大阪府)
- 45 真夜中の酒宴を見る猫と棲む
久保和友(滋賀県)
- 46 胸一つ叩けばそれですむ話
奈倉楽甫(愛知県)
- 47 団体の客に蓮の香うすめられ
青木日出男(群馬県)
- 48 古希迎え立つも座るもドッコイシヨ
岡弘子(埼玉県)
- 49 子の欠点都合悪きは相手似と
栗原黎(群馬県)
- 50 擦り切れたタワシが好きな鍋の底
石神紅雀(鹿児島県)

俳句

- 51 八朔の祝ひは遙か姉老いる
千代田俳徒(東京都)
- 52 カーテンのふくらみ頬に昼寝せる
吉田律子(新潟県)
- 53 真贋のわからぬままの軸曝す
中村三千年(三重県)
- 54 すそ揺らすロングドレスの案山子かな
三津木俊幸(千葉県)
- 55 跣足の子祖母を逃るる力あり
重原昇(新潟県)
- 56 仏壇の花枯れてゆく早さかな
五十嵐睦博(新潟県)
- 57 夕月夜あした働く鎌を研ぐ
椋本望生(大阪府)
- 58 母と手をつなぎし昔天の川
大谷茂(埼玉県)
- 59 利酒やラベルの美女はつれなくて
山東爺(北海道)
- 60 妻の袖引いて邯鄲聞き入りぬ
星野三興(新潟県)
- 61 夏木立気根怪異な落羽松
居原田連星(大阪府)
- 62 見上げれば庭の大木秋の蟬
須澤重雄(長野県)
- 63 酸性の川の育むチャソボミグケ
山崎吉晴(群馬県)
- 64 冬木らに声あり雲に動きあり
吉田未灰(群馬県)
- 65 ネクタイを外しなさいよ四十雀
川口襄(埼玉県)
- 66 大夕焼指きりげんまんまたあした
吉村充治(埼玉県)
- 67 紅葉山喜怒哀楽を見せてをり
橋本世紀男(東京都)
- 68 仏舟この世にくぐる橋いくつ
堅田秀子(東京都)

- 69 雷神に再生鼓膜ままならず
大場きよし(宮城県)
- 70 被災地に底力あり返り花
井原毬子(東京都)
- 71 石にあり水音にあり秋の声
阿部徳夫(宮城県)
- 72 男なら老斑かくさず雪降し
美濃部絃三(新潟県)
- 73 暑中見舞アンナプルナの麓より
小島岳青(新潟県)
- 74 すこやかに老いて向き合ひ夕涼み
杉村美保子(岩手県)
- 75 土手を往く母似の人の白日傘
鈴木蝶次(宮城県)
- 76 粗相して風呂よりけろり裸ん坊
水川聖子(埼玉県)
- 77 風の盆気力を込める男舞
駒場京子(神奈川県)
- 78 鰻重や喜寿へ一步の誕生日
紺谷睡花(東京都)
- 79 したたかに生きた八十路や夏暑し
神作洸江(埼玉県)
- 80 寒蟬や閨値を越える草の丈
安部世衣子(埼玉県)
- 81 寄る年のたたずむ炎昼慈悲の声
大塚徳子(埼玉県)
- 82 木椅子みな海向く茶房涼新た
清水勝子(神奈川県)
- 83 父母の音刻み溽暑の振り時計
有田裕子(北海道)
- 84 鶴ヶ城一日見ゆるや柿をもぐ
大塚正路(福島県)
- 85 頬フェツチてのひら白くレモン注ぐ
森俊彦(神奈川県)
- 86 炎昼や魚は深みに眠るらし
橋本良子(埼玉県)
- 87 戦没の遺族も白寿終戦日
村上克哉(東京都)

- 88 散水に猫路地に逃げ残暑かな
松田重信(埼玉県)
- 89 かなちゃんのサンダル飛んではにかんで
久世しずか(埼玉県)
- 90 無垢であれ染め落ちるなよ男郎花
有坂馨園(福島県)
- 91 爆撃機飛ぶ沖縄の終戦日
富樫和子(山形県)
- 92 腰伸ばす目前湧きたつ積乱雲
小形さだ(東京都)
- 93 靴下をひっぱつて脱ぐ残暑かな
尾股清一(福島県)
- 94 鳶の輪の大きく舞つて夏衣
副島加代子(宮城県)
- 95 とびはねていたころもありあめんぼう
井田由利子(宮城県)
- 96 風鈴や風にまかせて平和の音
古谷力(東京都)
- 97 春が来た夏は来ぬそして赤とんぼ
阿部至(埼玉県)
- 98 戸隠や風のさやく蕎麦の花
内河邦久(東京都)
- 99 原爆忌目にした父の一人酒
松尾らん(東京都)
- 100 万緑やかくれ宿めく蕎麦どころ
林 克(福島県)
- 101 かえり得ぬ夫待つ我の葉月かな
堀田寿美子(北海道)
- 102 介護士を吾子の名で呼ぶ敬老日
土谷敏雄(秋田県)
- 103 山裾の夕日にあそぶ蕎麦の花
田中昶(鳥取県)
- 104 風死する中に臨書す古筆かな
津田忠彦(岡山県)
- 105 蟻の指話密議通してえさ運ぶ
中高純子(新潟県)
- 106 卷狩の陣の跡てふ暑気払ひ
渡邊碧海(静岡県)

- 107 ふる里は石垣数多葡萄熟れ
森川千英子(千葉県)
- 108 夏座敷ぼんと置れし将棋盤
高松ゆか(神奈川県)
- 109 千灯会琴の音聞こゆ夏の宵
山田幸代(兵庫県)
- 110 稲妻の軒ごろごろして近き
堀井醉人(茨城県)
- 111 手拭の上に夏帽のせて父
竹内ハヤ子(埼玉県)
- 112 駅までは下り坂なり夕とんぼ
柚木晴雄(神奈川県)
- 113 道程の輝いているなめくじり
井上静夫(栃木県)
- 114 乳母車幼児満車や雲の峰
清まさじ(静岡県)
- 115 一脚は上げしままなり茄子の馬
佐野和彦(静岡県)
- 116 浴衣着て家族で行つた夏祭
高松愛(神奈川県)
- 117 曲家に秣の匂ふ山背かな
古川正栄(千葉県)
- 118 渡月橋色なき風を招きをり
山本理香(大阪府)
- 119 夏深し小町の湯にてのんびりと
田中恵美子(山形県)
- 120 川の字も二人ふえたる帰省かな
川崎洋吉(福岡県)
- 121 夏菊や遺影の児は笑み見せて
佐瀬千恵(神奈川県)
- 122 更科や黄の袖子の香のど涼し
石尾曠師朗(東京都)
- 123 秋天につまずくほどの平和かな
北村純一(神奈川県)
- 124 ランドセル口開けしまま夏休み
大西誠一(岐阜県)
- 125 路地に咲く今朝の朝顔藍の色
中村慶子(滋賀県)

- 126 大文字消えゆく闇のただならず
炭崎博(滋賀県)
- 127 帰省子の一日を鱧のごとく寝る
津田吾燈人(高知県)
- 128 蟬の穴都市計画はまだですか
武市愛子(大阪府)
- 129 病む身では何も出来ない残暑かな
延原令岱(岡山県)
- 130 通学路女高生さす日傘かな
中村康浩(福岡県)
- 131 蜜豆のひとつを分けて昼下り
大内泰子(東京都)
- 132 復興を祈ると書いて星祭
大橋恒次(新潟県)
- 133 生きるとは人の欲望地虫鳴く
田島星景子(宮城県)
- 134 遠ち近ちに秋蟬鳴いて幾山河
菊池シユン(青森県)
- 135 秋蝶の昇りて消えし光かな
野木宗信(奈良県)
- 136 火の山にけむり一筋墓洗ふ
浜田はるみ(埼玉県)
- 137 猛暑日や木蔭ビルありがとう
布目雅之(東京都)
- 138 ガザニアと記念写真を撮る音と
安部哲(新潟県)
- 139 区切り無き花野わけ入り自己批判
山本善輔(兵庫県)
- 140 水を打つ八百屋のおかみ左利き
寺内信(埼玉県)
- 141 十三夜放生池に跳る音
西口東治(大阪府)
- 142 ただいまの声に尾を振る金魚かな
高崎登喜子(東京都)
- 143 妻惚け銀河の縁に星ひろふ
根岸五郎(千葉県)
- 144 生ビール一気呵成の一杯目
長峰正晴(千葉県)



投稿作品

- 145 ぎしぎしに鏝のさしきし半夏雨
平山千江(岩手県)
- 146 風鎮の時にゴトンと夏座敷
磯部力(新潟県)
- 147 梨むくや母は何時でも芯を食へ
小林正男(新潟県)
- 148 秋立つや豆腐に添ふるキムチ漬
中西秀雄(東京都)
- 149 よく喋る床やの婆さん秋暑し
鈴木与平(宮城県)
- 150 浮き城の謂はれ惚ぶや蟬時雨
岡野智恵子(埼玉県)
- 151 夕映えのうすれゆく瀬や新豆腐
片山茂子(埼玉県)
- 152 小太りの女が来たる炎天下
小井寒九郎(三重県)
- 153 炎して花びんにささる鶏頭花
樋口二葉(三重県)
- 154 飛ぶものの光りをとらへ枝垂萩
環順子(東京都)
- 155 菩提子を二つ三つ置き墓を去る
那須美言(山梨県)
- 156 梅雨闇や女医の手握る麻酔台
浦橋渴雪(兵庫県)
- 157 山風に紫雲広がる秋の声
望月喜美子(静岡県)
- 158 山降りて目玉飛び交ふ赤蜻蛉
小澤円梨(静岡県)
- 159 はにかんで幼き男女の麦わらぼう
中嶋清子(佐賀県)
- 160 八月十五日過ぎてても八月十五日
福岡悟(東京都)
- 161 助六のいなせな見得や走り梅雨
関原幸子(東京都)
- 162 四捨五入して八十路なり萍や
青木涼子(埼玉県)
- 163 蛸を食む習はしものに半夏生
道給一恵(埼玉県)
-
- 164 猛残暑此れも人生靴を履く
田野井一夫(栃木県)
- 165 何故喰うた兵の霊訊く夏の夜
加用章勝(千葉県)
- 166 金木屋の香りにむせび泣くネズミ
白戸麻奈(東京都)
- 167 ウォーキング箒草色つき天高し
西條公雄(埼玉県)
- 168 野菊のごとく男は黙って戦争へ行つたか
暉峻康瑞(鹿児島県)
- 169 どの児にも勝たせたきかな甲子園
濱田イサオ(福岡県)
- 170 甘酒で酔つてゐるなり八犬伝
安木沢修風(新潟県)
- 171 叩かれて選られし西瓜み仏に
竹澤茂子(大阪府)
- 172 昼寝覚めほほにくつきり豊あと
大久保アヤ子(東京都)
- 173 秋立ちぬ手放す木の葉だきしめて
水落重武(新潟県)
- 174 廻せ廻せ林檎隈なく色づけり
緑川禎男(埼玉県)
- 175 杖の身も門に出て見る遠花火
堀木和子(大阪府)
- 176 朝つゆに蟬の声なき晩夏かな
河合ヤスエ(大阪府)
- 177 遠くまで行く秋風と道連れに
日下温水(東京都)
- 178 青葉闇抜け来て下品下生仏
小山たけし(埼玉県)
- 179 くもの囲の風に吹かれてきらめける
山崎紀久江(福岡県)
- 180 掃苔や朝の静寂へ般若経
山本直子(大阪府)
- 181 水枯れて日照続きの猛暑かな
関子利明(兵庫県)
- 182 鈴虫の床屋の椅子に眠りけり
坂山陽康(滋賀県)
-
- 183 三日月へ添水の音のたかまりし
澤雅子(大阪府)
- 184 夏好きは今日を限りに返上す
岩永登茂子(大阪府)
- 185 旅せむと三角にぎり日日草
竹本美美子(新潟県)
- 186 沖繩の匍匐前進虫すだく
稲垣恵子(埼玉県)
- 187 蛭蝶光り干草に乱れ飛ぶ
浅倉里水(千葉県)
- 188 絶え間なく猛暑募るや救急車
谷口弘(栃木県)
- 189 夕端居半生を聞く風を聴く
山本せつ子(鹿児島県)
- 190 めいめいが秋果購ふ道の駅
今井勝子(新潟県)
- 191 星月夜芭蕉の足跡出羽三山
檜山とり子(東京都)
- 192 寝返りもポーズのうちよ八月尽
川嶋法子(東京都)
- 193 分け入れればニョキリ竹にぶつかりぬ
忍正志(兵庫県)
- 194 山頂に座して眺むる天の川
津布久信雄(東京都)
- 195 青柿や大器晩成祈るのみ
友松草薫(群馬県)
- 196 かすかなる風を連れをり蜘蛛の糸
坂本むつ子(埼玉県)
- 197 ふるさとへ列車乗り継ぐ益休
早矢仕邦夫(愛知県)
- 198 背の丈をついに越されし帰省の子
杉原明子(静岡県)
- 199 浅間嶺や虫の音高き虚子山廬
古郡孝之(埼玉県)
- 200 脳ドック年相応と夏の果
高橋まさ子(宮城県)
- 201 寝息たて猫のよだれや食の秋
野村牟人(東京都)
-
- 202 深海の秘境を探る夏休み
岡村君枝(茨城県)
- 203 みそはぎやこぼれる先の音ひろい
北野耕兵(千葉県)
- 204 車椅子もどろし梅雨の水溜り
橋本まこと(栃木県)
- 205 昨日より色の濃くなる紅葉かな
青木ケン子(埼玉県)
- 206 焼き唐黍ハローニカのごとかぶりつき
油谷郷史(兵庫県)
- 207 佐渡に來し稲の黄金豊の秋
福田和子(東京都)
- 208 あわただし迎え送り火盆三日
阿部幸子(宮城県)
- 209 小二の孫帰りつくまで三尺寝
田野倉訓郎(東京都)
- 210 物言はぬ千兆円や八重葎
岩村昇(神奈川県)
- 211 早世の裸の大將大花火
羽根田明(神奈川県)
- 212 星月夜大きな文字の宿の下駄
中田文子(大阪府)
- 213 帰省子の靴ぬぎてより里言葉
小林七重(新潟県)
- 214 父の日のふわりと返すフライパン
棚橋麗未(東京都)
- 215 水かけて墓石を濡らす炎暑かな
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 216 不自由もありて自由よ秋の虹
村木友光(埼玉県)
- 217 ひと言を黙して閉ぢる秋扇
渡辺嘉幸(東京都)
- 218 浜風の猛暑一服こち良さ
中村和弘(愛知県)
- 219 夏蕨いまま拳を高く上げ
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 220 草をはむ牛の管理や桜草
中野勝子(鹿児島県)

- 221 聞き上手は話上手に小鳥来る
長島保子(東京都)
- 222 追うごとくせわしくなりぬ虫の声
鈴木みえ(長野県)
- 223 木々はみな命の讃歌青葉光
柴田恵美子(北海道)
- 224 逢魔が時人の消えゆく芒原
鈴木智子(千葉県)
- 225 手花火の向かふの闇の幼な顔
増本和子(大阪府)
- 226 黒い傘目にするほどに暑くなり
木下精(大阪府)
- 227 反抗期ぬけてきれいに日焼けして
藤田昭代(岡山県)
- 228 猛暑日の続き芙蓉のくれのころ
池本勇(三重県)
- 229 将軍杉伝説山ほどおぼろの夜
五十嵐勝敏(新潟県)
- 230 二歳児のヨチヨチ歩き踊りの輪
勝田久美(大阪府)
- 231 夫焚きしところに夫の魂迎へ
木村貞恵(静岡県)
- 232 とこしへに昭和を負ひて八月来
高瀬秀嘉(静岡県)
- 233 頭上一面鯖雲の下魚を買う
池田岬(埼玉県)
- 234 原爆忌平和の鐘を打ち鳴らし
能條憲夫(神奈川県)
- 235 うつつなき友を見舞いて夏開ける
長野光康(神奈川県)
- 236 寝てしまふ仔猫寝たまま返しくる
田中美智子(埼玉県)
- 237 驚きてしがみつく孫花火の夜
針生清(千葉県)
- 238 新涼や碓氷峠と聲はやる
矢野絹枝(東京都)
- 239 断捨離を迫られてゐる残暑かな
大阿久雅子(東京都)
- 240 阿弓流為の闇抜けてくるねぶたかな
原田麦吹(埼玉県)
- 241 受付のナースの小声団扇置く
川崎貴行(熊本県)
- 242 吾亦紅肩組み交す友の唄
齊藤安弘(神奈川県)
- 243 吾子の眼に映りて消ゆる夏花火
若月理依子(新潟県)
- 244 逝き人のあの世の声か時鳥
中山日出子(大阪府)
- 245 咲き満ちて天は淡紅百日紅
小山和香(大阪府)
- 246 背骨折る夢の藜杖偲びけり
菅井文男(新潟県)
- 247 向日葵は陽に憚りて夜も沈む
井上氣海(広島県)
- 248 黒いけの弁当箱や原爆忌
成田節子(山形県)
- 249 エンディングノート真つ新秋薔薇
中野豊彦(東京都)
- 250 花むくげ裏の山手にきつね雨
小野寺裕子(宮城県)
- 251 蛾を寄せて妖し美し火焰かな
今井節子(千葉県)
- 252 蚊を撃つた南無阿弥陀仏を諳じる
辻升人(東京都)
- 253 見えずとも風持てくるや葉月尽
坪田勝秀(鹿児島県)
- 254 どこへでも夫ついてくる暑さかな
鷲谷浅子(茨城県)
- 255 豁然と照る参道や梅雨の明け
浅野信廣(宮城県)
- 256 白むくげ驕りも知らず古き家
木村舩(山形県)
- 257 飽満な身には着物で夏痩せて
石川郁子(埼玉県)
- 258 敗将の頬に散る汗涙とも
西川孝子(奈良県)
- 259 富士五合富士には富士の花野かな
杉浦俊雄(静岡県)
- 260 栗飯を供へ念仏高らかに
小林紀美子(東京都)
- 261 旧家には旧家のにほひ竹落葉
二瓶邦枝(埼玉県)
- 262 青梅落つ両手に包む陽の匂ひ
上村元義(神奈川県)
- 263 一人とはこんな静か秋の暮
宇田川正雄(埼玉県)
- 264 琴爪をみがいて秋の演奏会
黒岩正子(埼玉県)
- 265 空港は一日濃霧かもめ鳥
高杉杜詩花(北海道)
- 266 取り入れの茄子きゅんと鳴る竹籠に
神一男(静岡県)
- 267 房総の海の色かへ曼珠沙華
福山三智子(東京都)
- 268 ちよつとしたことを忘れるこの頃にや
はり老いたかとひとりごちする
佐々木都(長野県)
- 269 終着駅の線路の端にたたずれば六月
の風鉄の匂いす 待元明子(兵庫県)
- 270 吾が土地のことだけ嘆くふるさとよ
北方領土日本のために
早坂絃司(北海道)
- 271 田んぼの小さな池の蓮の花うすい紅
色朝日にはえる 新井賢(埼玉県)
- 272 三重の台座に建てり自然石に太太刻
める良寛禅師墓 増田信雄(埼玉県)
- 273 昨日より降りつづきたる雨のしずく
水引草の花の光れり
緑川葉子(福島県)
- 274 原爆の写真集見て泣きし娘の亡き今
もまだ原発やまず
加納昭子(北海道)
- 275 さくらんぼひとつひとつと丸き実をふ
ふめば戻る幼かりし日に
萬濃その子(神奈川県)
- 276 さあ明日は少し元気を装って見せね
ばならぬヘルパー来る日
井川英子(大阪府)
- 277 ちちははに見せず終いや富士の山あ
さなゆふなに富士崇めをり
石崎博美(神奈川県)
- 278 畑仕事寝ても覚めても気がもめる蒔
く種子ものや場所に肥料に
田中豊恵(新潟県)
- 279 TPPまずは参加と舵を切る高き支
持率背景にして 大竹憲弥(新潟県)
- 280 朝霧に濡れたる小さき蜘蛛の巣の真
中に潜み蜘蛛は動かず
桑原謙一(群馬県)
- 281 久々に白雨のありて土にほひ畑の菜っ
葉おどり出したり
黒澤正行(福島県)
- 282 菓子はめば乾く口もと茶にしめす妻
と二人の無口の楽しい
土屋喜雄(山梨県)
- 283 猛暑つづき生きて身にしむ年となり
さぬきうどんを食べりや忘れる
佐伯セツ子(香川県)
- 284 感傷に溺れてわれら駆け寄りぬヘッ
プバーンとベックのごとく
西山悌三郎(高知県)
- 285 鉾に添う袴すがたの祖父が見ゆ遙か
なる日のかそかに揺れて
山内寿子(京都府)
- 286 楽しみに待っていたのに盆踊り途中大
雨右往左往なり
浅沼正子(神奈川県)
- 287 ふるえつつ地へ打たれゆく杭みえて事
務執る窓を終日ならず
北岡晃(兵庫県)

288 悔しいな熱中症もどきに夫もなり
ベッド並べて点滴を受く

289 濱崎祥子(鹿児島県)
行く先に用あり汗の日々なるに友は
一日長しとなげく 高須孝(愛知県)

290 軍艦が沈んだままの夏
の海忘れたように
に鷗とび交う 篠原三郎(静岡県)

291 村々に昔はありし警女の宿
尼さまの宿くすりやの宿 佐藤千仙(新潟県)

292 焦らずに病としつかり向きあつて
出足すくめば行くなと夫は 田中迪子(東京都)

293 皇后に腹をさすられ出産を被災地
二年振りの快事ならずや 今井忠一(東京都)

294 傾ける竿に群がる朝顔の命のつるの
八方に向く 小川和恵(新潟県)

295 来世には四季なし刻なし生命なし果
てなしという真実もない 寒川靖子(香川県)

296 駆けつゝが何故運動会につきものか
我が家はみんなどん尻り 吉野成行(愛知県)

297 富士山は世界遺産ぞ安倍首相アメリ
カ軍の実弾射撃 野中よしみ(神奈川県)

298 ケータイの向うに田舎の母が居る米
送つたとメールが届く 増島淳隆(東京都)

299 漂着の三沢の若布オレゴンに「侵略的
外来種」の一つとなれり 渡邊美枝子(山梨県)

300 秋草のなつかしきそのふるさとのいま
せしひとのおもかげにて 神野弘(岡山県)

8月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございます。その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》 6 空襲をぼつぼつ語る夏帽子

佐藤信(神奈川県)



佐藤信様

・戦後も遠くなりにけりて戦争を語る人も減る一方。だが語り継いでいかなければならない。吉村充治(埼玉県)・ぼつぼつ語るに被災した悲しみが込められていて良かった。清水勝子(神奈川県)・七十歳以上の方はそれぞれ空襲にあつていと思います。それを思い出させる佳句です。大塚正路(福島県)・空襲で何も彼も無くした人が家族を守るために懸命に生きて来た人生の言の葉は深く重い。井上静夫(栃木県)・八月といえば空襲、敗戦がまず思い出されます。寺内侘(埼玉県)・あの思まわしい思い出は雄弁でなくぼつぼつ語るからこそ迫るものがある。長峰正晴(千葉県)・中七でこの方の悲しい体験を省略。平山千江(岩手県)・一年の中で日本人の一番重い月は八月。原田麦吹(埼玉県)・戦争を語り継ぐこと大事です。私も語っています。齊藤安弘(神奈川県)

・戦後六十八年になり、戦争の事が忘れられようとしておりますが平和の大切さを語りつぎたいと思います。成田節子(山形県)・「空襲をぼつぼつ語る」と表現したところに心にひびくものがありました。石川郁子(埼玉県) ほか

【自句自解】

私の住む相模原は軍の大事な施設のある軍都であった。しかし、空襲はなかったという。多摩丘陵を挟んだ八王子は空襲で空が真っ赤に染まったと聞く。戦争の体験は誰もが語りたがらないが体験者はみんな「二度と戦争をしてはならない」と言う。直接の体験者が少なくなってきた今、その話を聞いた者が語り継がねばならないと思う。日本を再び戦争をする国にしないためにも、戦争体験をしつかりと聞いて書きとめておきたいと思う。

《俳句》

143 さびしさも自由のひとつかたつむり 近藤薫也(千葉県)

・表現が面白い。佐野和彦(静岡県)・「自由」の意味はいろいろです。うまくとらえています。北村純一(神奈川県)・外出する際、夫の食事の仕度などが面倒でつい独り住まいの方に「良いわね、自由で」と言う。「でもさびしいわよ」と必ずと言って良い程同じ答えが返ってきます。束縛されるのも幸せと思わなければいけませんね。大内泰子(東京都)・殻に閉じ籠るのも自由の一つと肯定すれば、ゆつくり歩き出せる。季語の効果抜群。浜田はるみ(埼玉県)・さびしい一人暮らしにも誰にも気兼ねのない自由がある。高崎登喜子(東京都)・若い時に比べ自由になったことは確かです。一方でさみしさということも

すよね。よく分ります。堀木和子(大阪府)・自由があつて良い時もあります。橋本まこと(栃木県)・さりげない中に安定した安らぎを感じさせる。渡辺嘉幸(東京都)

《短歌》

234 返還は折れど空しふるさとの金を納めて昆布穫る海 早坂紘司(北海道)

・領土返還のむなしさが現実の生活を活写している。田中昶(鳥取県)・いまだ未解決の北方領土問題、漁師を泣かす政治の無力。大竹憲弥(新潟県)・北方領土の現実「金を納め」ないと昆布漁ができない。桑原謙一(群馬県) ほか

《川柳》

254 この人も独り暮らしかレジ並ぶ 藤井北灯(福岡県)

・老人の独りぐらしの心情よく出ている。近藤富夫(東京都)・買物へいくと昼間よく目につく。鈴木義雄(福島県)・成程。山崎一嘉(愛媛県)・特に男性の後にレジに並んだ時実感している句でした。竹森桂子(香川県)・よく見る景である。私はこの人も介護暮らしか並ぶレジ。野中よしみ(神奈川県)・独り身になってこの川柳は身にしみます。井上氣海(広島県) ほか

《他にも》

22 纏れてもほどく風あり夏柳 堅田秀子(東京都)

32 三行の父の手紙や鉄線花 長峰正晴(千葉県)

215 老ふたり器はひとつ冷そうめん 坪田勝秀(鹿児島県)

226 情にては喜怒哀楽のありながらなせ 少なきか怒りの歌は 篠原三郎(静岡県)

※今後もふるまご投稿をお願いいたします！

前回のアンケート

Q.10年間続けていることは？
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんこと
をお詫び申し上げます。

☆いろいろ

- ・信仰・コーラス・習字・俳句 小山和香(大阪府)
- ・短歌誌「ちくま」の発行六十二年、日記、クラス会幹事、レター友 佐々木都(長野県)
- ・写経、散歩、絵画等鑑賞 田中昶(鳥取県)
- ・散歩・日記・和裁(四十年) 森川千英子(千葉県)
- ・書道、ご詠歌、古文の音読 山田幸代(兵庫県)
- ・習字、花(アメリカカンフラーワ)、カラオケ、俳句 清まさじ(静岡県)
- ・五十年以上 写真、古寺巡り、下手な歌詩づくり 石尾曠師朗(東京都)
- ・健康体操(ストレッチ、エアロ、ヨガ) 週1回 古典講座(源氏物語) 月一回、先生が三人目になりました。 中山日出子(大阪府)
- ・塩分控え目。JRA GIレース馬券購入。 増島淳隆(東京都)
- ・ヨガ、俳句、食生活推進員協議会、日本語ボランティア 水川聖子(埼玉県)
- ・農業、片想い、民生委員 尾崎友子(千葉県)

☆日記

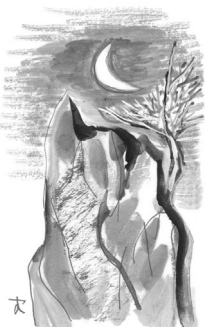
- ・俳句・ラジオ体操・日誌・菊作り・山野草作り・切手古銭も集めています。 田島星景子(宮城県)
- ・俳句・川柳・野球部の監督。 原崇雄(埼玉県) 他
- ・成人した子供がおいて行った日記帳に書き始めて、今では家計簿になったり予定表になったり愛用しています。 堀田寿美子(北海道)
- ・400字日記。旅行中もメモをのこす。あとで書き直す。 井川英子(大阪府)
- ・簡単日記です。ボケ防止を目的に最後の日まで書きたいナ。 奥那於子(大阪府)
- ・十年日記帳に血圧と体重の記録。 長峰正晴(千葉県)
- ・少年の頃から日記を続けております。 浅倉里水(千葉県)
- ・大学ノートの表紙に、天の邪鬼の独り言と書き還暦から24冊目が残り少なくなりました。ただし居眠りで何を書いているのか読めないページもある。 野中よしみ(神奈川県)
- ・平成になってから「三年連用日記」を使い書き続けています。 齊藤安弘(神奈川県)
- ・タイトルは「雪月花」自作のノート。夫の悪口でも何でも書いているので楽しい。 木暮珣子(群馬県) 他
- ☆俳句
・俳句とギター、どちらも胸を張れる「モノ」でない。しかし生活の一部です。 山崎吉晴(群馬県)



- ・俳句、俳画、インターネットの自分のHP、語り部というの続けています。 大塚正路(福島県)
- ・日本語の美しさに重みを感じている日々です。 堅田秀子(東京都)
- ・俳句講師の仕事(十五年以上です) 井原穂子(東京都)
- ・下手な俳句を五十年。脳の運動を信じています。 炭崎博(滋賀県)
- ・「俳句」20余年。17音難しい。 福岡悟(東京都)
- ・作れなくて苦しむ時もあるけれどやつてきて良かった。 久世しずか(埼玉県)
- ・俳句作りと高令者相手の童謡・唱歌・懐メロ教室 増田信雄(埼玉県)
- ・我が道は此れと、俳句一筋に歩み続けて居ます。 田野井一夫(栃木県)
- ・俳句、歌舞伎鑑賞etc 谷口弘(栃木県)
- ・一日一句 五十一年間 早矢仕邦夫(愛知県)
- ・俳句、飲酒。 渡辺嘉幸(東京都)
- ・俳句、日本画 鈴木智子(千葉県)
- ・俳句好き。死ぬまで続けたい。 服部八重子(東京都) 他
- ☆短歌
・短歌とエッセイ 今井忠一(東京都)

☆川柳

- ・うた(短歌・川柳)づくり 久本にい地(岡山県)
- ・短歌を詠む。ほとんど毎週山に登る、歩く。 篠原三郎(静岡県)
- ・短歌「槻の木」で六十五年。家庭園芸で三十年。(四季の花と野菜少々) 相馬竹浪(新潟県) 他
- ・川柳・老人ホームへ通っていること。 宮崎正男(群馬県)
- ・四十年になります。石原岳(群馬県)
- ・川柳と卓球、共に「下手の横好き」 松田重信(埼玉県)
- ・川柳と文章を書くこと 田澤宏(新潟県)
- ・川柳 NHK通信講座 岡本恵(茨城県)
- ・川柳 ハガキ絵 竹森桂子(香川県)
- ・十年以上になりました。番傘は今年十月一〇五周年です。 高柳閑雲(愛知県) 他
- ☆体操
・テレビ体操と日記です。 三津木俊幸(千葉県)
- ・自己流ダイエットのストレッチ 山本理香(大阪府)
- ・起床後のストレッチ 腰が悪く続けています。 石崎博美(神奈川県)



A Q U E S T I O N N A I R E



・ラジオ体操 山崎鶴恵(鹿児島県)
・起床後自分なりに考案した運動。

☆音楽

・ウクレレを習い始めてそろそろ十年になります。 菊地可寿子(新潟県)
・小唄と三味線 北村純一(神奈川県)
・ヴァイオリン。ヘボ短歌。謡曲(喜多流) 西山悌三郎(高知県)
・大正琴の会に入つて十年になります。今、老人ホーム等に時々訪問しています。 杉村美保子(岩手県)
・日曜日にはピアノを弾くこと。 藤橋一葉(新潟県)他

☆スポーツ

・水泳を習っています。 吉田律子(新潟県)
・ゲートボール 田中豊恵(新潟県)
・テニス 西井喜江(大阪府)
・体力維持の為にスポーツジムに通う。 藤田照代(岡山県)
・マラソン・オーデオ 新井賢(埼玉県)
・ヨガ 小澤円梨(静岡県)他
☆ウォーキング 毎朝50〜60分 近藤富夫(東京都)
・ウォーキング。 佐伯セツ子(香川県)
・去年から今流行のツエ二本でせつせと歩く、これはいいですよ。

・通勤時、なるべく速く歩く様に心掛けております。 稲葉民雄(千葉県)他

・一日一万歩 青木涼子(埼玉県)
☆投句・投稿

・四大紙に俳句短歌を投句歌している事です。その間賞は6回頂きました。

・所属する俳句会の句誌に、16年間余まり、欠かさず「一句観賞」を投稿している。 野木宗信(奈良県) 邑橋節夫(兵庫県)他

☆菜園

・五十坪ほどの菜園管理。生ゴミ類の完全リサイクルと雑草の闘いに暮暮れています。 長野光康(神奈川県)
・家庭菜園。体力維持と妻との会話(食)を大切にして。寺内侘(埼玉県)
・草花作り。ここ数年は緑のカーテン(ゴーヤ)作りに励んでいます。 濱田イサオ(福岡県)他

☆仕事

・新聞配達 星野三興(新潟県)
・コンビニのバイト 待元明子(兵庫県)
・定年退職後再就職し74歳の現在も勤務中！ 安田翔光(香川県)
・今年六月一日で会社創業十年目に入りました。毎日が苦勞の連続ですが、でも「やりがい」は感じています。 辻升人(東京都)他

☆お酒

・果実酒づくり 堀井酔人(茨城県)
・ローカルな駅近旅館での地酒純米酒呑み 北野耕兵(千葉県)
・晩酌デス。 有田俊一(埼玉県)他

☆書

・書と五七五並べ俳句にはなりません。ライフワークです。 津田忠彦(岡山県)
・毛筆で毎日写経をしています。 大岩歌子(岡山県)

・介護施設の入居者デイサービスを受ける人達に「書道教室」のボランティアをしています。 布目雅之(東京都)他

☆コーラス・合唱

・「混声合唱」三つの合唱団に所属。 古谷力(東京都)
・市民婦人コーラスに入つてコーラスを続け楽しんでる。 三浦博(岩手県)他

☆ボランテア

・点訳ボランテア 大内泰子(東京都)
・子ども達への読み聞かせと、わらべ歌の会ボランテアです。 落合敏子(北海道)他

☆読書

・小さいことですが、書店で自分で購入して一年に、一冊は必ず新刊を見えています。 松尾正一(岩手県)
・読書年に二百冊 井上氣海(広島県)他

☆お墓参り

・祖母の月命日(毎月一日)のお墓参り 阿部澄江(宮城県)
・父が亡くなつてちょうど十年です。お仏さんの花もきらしたことがあります。 増田公代(東京都)他

☆朝起きて

・朝食にバナナ一本と水コップ二杯のみ、でもやせません。 環順子(東京都)
・朝起きて水をコップで二杯のむ。 鈴木義雄(福島県)他

☆治療

・C型肝硬変の治療、但し続けているのではなく続いているのですが意識的には悪化しない為の努力でしょうか。 吉澤昌美(長野県)

・癌のため病院通いを続けて十三年 西口東治(大阪府)他

☆パソコン

・パソコンによる写真現像、処理です。 田野倉訓郎(東京都)
・終戦後より職歴を作文にして打つてます。 宇田川正雄(埼玉県)他

☆食事

・鳥取のらつきょう10kgを漬けたもの、古たまねぎのスライスを毎朝食べる。 坂山陽康(滋賀県)
・三度の食事はかかさない。 矢野絹枝(東京都)他

☆その他

・伊豆の別荘の庭仕事 橋本世紀男(東京都)
・朝起きたら妻にあなた美人だねと賞賛し肩をポンとうつ。結婚以来五十九年、よくもマア甘い言葉を言うものと妻はあきれいています。 山東爺(北海道)

・家計簿を毎日つけること。 大場きよし(宮城県)

・モーニングコーヒーを飲みながら朝刊を読むこと。 阿部徳夫(宮城県)
・野球観戦 熱狂的な巨人ファン。今シーズン一喜一憂している。もちろん優勝を信じて。 紺谷睡花(東京都)

・茶道です。 安部世衣子(埼玉県)
・自然観察、サクラ開花調査二十五年 森俊彦(神奈川県)

・絵画(二科会)をやっています。 中高純子(新潟県)





・月一回の吟行 大西誠一(岐阜県)
 ・幼馴染の歌ちゃんとお文通つづけて七十年、いろんな事がありました。

延原令岱(岡山県)
 ・十指に余る趣味に關つたが将棋の趣味が十年どころか六十余年。将棋馬鹿を自認。 大橋恒次(新潟県)
 ・虎ファン(例年しんどいです) 奥田音野(香川県)

・囲碁 請閑邦俊(埼玉県)
 ・ペット 愛犬倅子(ゆきこ)は今年の6月、10才になりました。 大橋絵代(千葉県)
 ・読経 暉峻康瑞(鹿児島県)
 ・町内会、会報の編集 守屋高雄(岩手県)

・ナンバー(宝くじ) 開始以来 村岡盛英(群馬県)
 ・病後のベッドの上での筋トレ 加用章勝(千葉県)

・恋愛。 今井勝子(新潟県)
 ・文芸全般 萬濃その子(神奈川県)
 ・毎朝般若心経を唱えている事です。 中田文子(大阪府)

・心に響く句を筆墨で表現し、六本木国立美術館 東京都国立美術館へ毎年出品していること。 南喜美子(千葉県)

・地元公民館の年一回の文化祭の演芸プログラム(100組200人位の方が出場)の編集及び司会。 仁藤ひろじ(埼玉県)

・陶芸 中野勝子(鹿児島県)
 ・午前四時起床(十年ではなく五十年ですが) 寒川靖子(香川県)
 ・個人誌、余白に宝くじや記念切手を貼ったりする趣味誌です。

久保和友(滋賀県)
 ・スペイン語 高瀬秀嘉(静岡県)
 ・先輩の句、短冊を拓本にとる(彫つて刷る) 奈倉楽甫(愛知県)
 ・公益財団法人日本美術刀剣保存協会 協会誌「刀剣美術」の誌上鑑定 出題刀の答解入札。

青木日出男(群馬県)
 ・毎朝、一日の無事故健康を心に念じてます。 針生清(千葉県)
 ・同居の孫三人を育てる手伝いをして、今年上の子が二〇才になります。

成田節子(山形県)
 ・「けち」 石神紅雀(鹿児島県)
 ・盆栽 藤井春三(埼玉県)
 ・初詣と日記は60年結婚以来続いています。 鏡たか子(山形県)

・こつこつ地道に毎日毎日勉強 梅沢進(埼玉県)
 ・専業主婦業 柳澤京子(宮城県)
 ・神社に奉仕しています 大鳥居牧子(東京都)

・会社のOB会の幹事を引続きやっています。 鈴木章(新潟県)
 ・弓道 西條公雄(埼玉県) 他



挿絵 須澤重雄

新潟ぶらり

★自家焙煎珈琲ミルクラフト

盛岡さんご夫婦が切り盛りする、コーヒー専門店。県内でも有数の豪雪地・十日町にある、小さなちいさなお店だ。

縁あつて弊社のオリジナルブレンドコーヒーをつくっていたのが、一年前のこと。二時間以上かけて弊社まで来てくださり、弊社の想い、お客様の背景、一つひとつ大切に聴いてくださった。打ち合わせを重ねて出来上がったコーヒーのコンセプトは、昔懐かしい喫茶店の味。盛岡(綾美)さんが「冷めても美味しい」「ゆつたりと本を読む時間に寄り添うコーヒーになった」と評したこのコーヒーは、本当においしい。難しいことはわからないけれど、おいしいということだけは、わかる。

ミルクラフトさんは、そんな「おいしい」を届けるために、厳しい条件を満たした豆だけが称される「スペシャルティコーヒー」を専門に取り扱う。「コーヒーも、野菜と同じ生鮮品なんです」とは、マスターを務める盛岡(貴裕)さんの言。新鮮な豆を使ったコーヒーは、豆による味の違いがわかるという。体験してみるまで疑わしい気がしていたが、試飲させていただ

き、驚いた。本当だ。それぞれの個性が、わかる、味わかる。

ショーケースには、こだわって選ばれた豆がずらり。それぞれどの国の、どの農園で生まれたものか、どんな特徴があり、どんな焙煎方法を使ったのか、詳しく記されている。生産者である農園という関係を築き、生産から一緒に品質向上を目指していることも聞いた。いずれも愛情たっぷり育てられた、コーヒー豆たちなのだ。

最後にマスターおすすめのコスタリカのコーヒーを買った。挽いたばかりの香りは甘く、コーヒーというよりも菓子みたいだ。コーヒーは、苦い飲みものではなかった。本当は、個性豊かな、フルーティな飲みものなのだ。

(菅真理子)



▲ケースの後ろには、盛岡さんが「大切なパートナー」だと話す焙煎機がある。

住所 / 〒948-0144
 新潟県十日町市水口沢45
 電話 / 025-1768-4327

●お客様の『リレーエッセイ』

パリの図書館とブキニスト

江葉恭子

(埼玉県・さいたま市)

セーヌ河岸には、緑色の屋台？のような出店がずらりと並んでいて、古本を中心にポスターやポストカード、ちよつとしたパリ土産も販売している。歩きながら覗いてみると、ただランダムに本や雑誌を売っているわけではなく、それぞれの店主には得意分野があって、その専門書を中心に扱っているようだ。

パリはもちろんのこと、海外でお店に入る時は、必ず挨拶をした方がいい。そうしないと店員さんが怪訝そうな顔をして、なに勝手に見てるのよ、という視線を送ってくる。でもこれら屋台の店主たちは、お店を覗いていても知らんぷり。小さな椅子に座ったまま、思い思いに過ごしている姿勢を変えない。商売っ気がないなあと思っても、でもこれだけで生活しているのなら、場所代もあるだろうし、やっていけるのかなと心配にもなる。

ところがあとで調べてみると、この古本屋さんたち、実はブキニストと呼ばれていて、パリ市公認の古書販売の出店であることが分かった。17世紀始め、ポンヌフの上に露店の本屋さんが見れたのが始まりだという。彼らは、場所代も売上げへの税金も一切支払う必要はなく、パリ市に完璧に守られているのだ。そして、彼らのこのお店もまた、セーヌ河岸の世界遺産に登録されているのである。だからこそブキニストたちは、あんなにのんびりとマイペースに（と言ってもパリの人々は基本マイペースだが）店番をしいられるのだと納得出来た。

パリの街では、これらブキニストだけではなく、古本屋さんもよく見かける。狭い間口でも奥行きがあり、階上階下と結構広い店内に古本がびっしりと並んでいる。もちろん通常の書店もあるが、新古本をビックリするくらい安く販売している書店もかなり多い。

そして本と言えば、やっぱり図書館。一般的な総合図書館や区立図書館の他にも、ブキニストと同じように、分野別に専門の図書館がパリ市内に散在していて、中には、今なお存在している中世の貴族のお屋敷を、そのまま図書館として機能させている所もある。

ある図書館を訪れた時、昔は舞踏会でも開いていたのかと思えるほどの特大ホールがあって、煌びやかな時代を彷彿させる内装と、高いドーム状の天井から、壁一面に本がぎっしり並んでいるのを見た時、本当に目が点、になってしまつて、しばらく動けなかった。

ネット時代の今、本も雑誌も電子書籍として、簡単にダウンロードして購入し、すぐに読むことが出来るようになった。しかし書店で本を手にした時、その中に描かれている未知の世界への期待が膨らみ、本の重みは、読むことによつて得られる知恵や知識、そして感受するモノの重さのように感じる。それは電波を伝って届く無重力の言葉たちには、感じることは出来ない。パリでも日本でも、まだまだ紙は健在で、本を愛する人々は沢山いるのだ。



本情報誌「喜怒哀楽」つづけて送付を希望される方はお返事ください。

P5でも、少し触れさせていただきましたが、お客さまより本情報誌「喜怒哀楽」を「無料でもらって会社は大丈夫?」や「無料だと申し訳ないからお断ります」等のお声を頂戴しております。

そこで、今号では通常のアンケートはがきとは別に、今後の「喜怒哀楽」の送付を確認するハガキを同封させていただきました。従来通り「喜怒哀楽」の送付をご希望される方は、同封のお手紙をご覧のうえ、ハガキまたはメール、お電話、ファックスにてお知らせください。その際に、応援メッセージ、またはご意見をお寄せくだされば幸いです!

引き続き、ご希望くださることを切に願っています。

なお、ご連絡なき場合は、今後送付されませんことを、ご了承ください。

おかげさまで10周年を迎えることができました。誠にありがとうございます!! そして、会社が移転しました

10月17日より、従来の社屋から徒歩30秒ほどの社屋へ移転しました。新住所は〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-29 に変更です。

電話、ファックス番号は従来どおりです。



「ご縁ブック2013」 「2014年手帖」締切りました!



本年も、多数のご投稿、お申込みをいただき誠にありがとうございました。本誌でもお馴染み、伊那市在住の須澤重雄様の挿絵が入った「2014年手帖」は、従来と様変わり。試作品が手元にあります、今からお届けできることが待遠しいです。「ご縁ブック2013」は12月上旬を「2014年手帖」は11月下旬の発送を予定しています。いずれも、楽しみにお待ちください。

情報をお待ちしています



6月より新しくなった当社ホームページ、または「喜怒哀楽」紙面で、俳句・短歌・川柳の大会告知、作品募集等の情報を掲載いたします! 郵送、ファックス、メールのいずれかでお寄せください。

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

ポストカード好評発売中!

毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は秋バージョンの「エスプレッソマシーン」を同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。

また、次号、12月号からは新しいポストカードのセットをご紹介できる予定です。ご期待ください!



スタッフの一言

Q.10年間続けている事は? ※おかげさまで10周年を迎えることができ、ありがとうございます。



「飲酒」。1日も欠かさずではありませんが、これは胸を張って言えます! 後はミズが違ったような誰も読めないように書いている日記ともつかぬ秘メモと口外できないボランティア。



10年以上…。あるといえはあ、ないといえはない。日記…は、10年になるかしら。昔は行ったコンサートのレポートなんでものを逐一書いていたけれど、最近はめんどくさくて「たのしかつた! 以上!」みたいな……。



めがね生活。かれこれ20年になりました。レンズも徐々に厚くなり、いまでは牛乳瓶の底といい勝負(超薄型になっているのに!)。トータルで15本以上は買っていると思う。



う～ん、子育て?かしら。24歳と23歳の息子たちの心配やら喜びやらで、泣いたり笑ったり…。息子達はもう構わんでくれ!という感じですが、相談事はまず、父ではなく母の私にしてください。



母の髪のカット&カラーでしようか。かれこれ15年位。『大金を払って美容学校に行かせたのに無駄になったんだから、私の髪くらい…』と嫌味を言われながら続いています。



なんとこの(株)ミュージックコーポレーションで勤続10年を迎えます。その間ずっと自転車通勤でアイスバーンの道路でひっくり返ったり、風の強い日に飛ばされそうになったり…でもまだまだ頑張ります!



なんか続けているのだけは多くあるかな。はたしてそれが良いことなのかはわからないが?日記はたぶん40年近く。2つの習い事は15年。もう1つは20年でやめました。最大の継続は結婚35年。自分でも信じられません。



「早寝キャンペーン」を自分だけで始めて10年経ちます。「早寝」といっても10時に床につければ上出来で失敗も多く…。でも「早く寝よう、いや寝る!」という気合いだけは10年衰えません。



趣味?リハビリ?の水泳クローラ歴10年になります。今では泳がない週は何だか気持ち悪いと思うくらいです。さらに上をいくうちの母親は20年…追いつけません(>~<)



2歳1ヶ月♡ 絵本と『となりのトトロ』が大好きです。



詠み人の『リレーエッセイ』

リヨンと私

北山あさひ

間違っている気がしました。列車のチケットに書かれている行き先が、間違っている気がしました。八月三日、フランスはパリ・リヨン駅でのことです。これで列車に乗ってもいいのだろうか。出発時刻までは、もう10分を切っています。常に混んでいる窓口に並び、拙いフランス語で駅員に事情を説明し、行き先を変更してもらおう時間はありません。乗っちゃおう。何とかなる、そう自分に言い聞かせ、私はフランスの高速鉄道TGVに乗り込みました。

仕事を辞めた私は、パリに六週間の短期留学にきていました。この日は少し脚をのばして、フランス第二の都市・リヨンへ。列車のチケットはすでに購入済みで、その行き先はリヨン「パール・デュー駅」になっているはずなのですが、どういわけか実際にチケットに記載されているのは「セントなんとか駅」でした。どこ。わからないまま、私はひとり車窓の景色を眺め続けました。

リヨン到着まであと少しというところで、列車はセントなんとか駅に停車しました。私は知らんぷりしてそのまま座っていました。乗ってきた一人の青年に「あの、その席、僕の席ではないですか?」と言われ、下車せざるを得ませんでした。TGVは全席指定なのです(今思えば、そのまま車内に残っていたればよかったです)。謎のセントなんとか駅、その正体はなんと「サンテグジュペリ空港」駅でした。空港。飛行機に乗る用事など一つもないのに、私は空港に降り立ったのです。

その後、途方に暮れていた私は親切な男性に助けられ、トラムという乗り物でリヨンのパール・デュー駅に何とか辿り着くことができました。さあ観光だと丘の上の教会へ向かいますが、ケーブルカーで降りる駅を間違え、ほとんど人がいない炎天下の町を歩き回るはめに。これだけでもじゅうぶん散々ですが、なんと本番はここからだったのです。

7月からパリに6週間の短期留学をした著者。異国で、それも一人のときに次々と襲ってくる試験。臨場感あふれる場面の数々。危機を乗り越えることで、人は強くなるのですね。

帰りのチケットに記載されている乗車駅は、もちろんサンテグジュペリ空港駅です。今思えばパール・デュー駅から乗ってしまえば良かったのですが、真面目なのか馬鹿なのか、私は再び空港へ行くことにしました。旧市街から地下鉄でパール・デュー駅へ行き、そこからトラムで空港へ行くとしたのですが、一連の混乱で疲れ切っていた私は、地下鉄を乗り継ぐ前に間違えて地上に出てしまい、間違えたことにも気づかず街をさまよいます。

最初に道を尋ねたおばあさんの言うとおりに歩いても駅はなく、おじさんにバスに乗れと言われてバスに乗り、降りると言われた場所で降りてもやっぱり駅はありません。タクシーもない。半ベソで街をさまよいつつ、このままリヨンで野垂れ死ぬのかと思いついた頃、ようやく駅が見えました。しかし、もはやトラムで空港へ行くには遅すぎ、列車の変更手続きをするにしても、そのうちに列車は出発してしまうでしょう。私はようやく見つけたタクシーに飛び乗りました。サンテグジュペリ空港へ、タクシーは高速道路を飛ばします。走れ、走れ、タクシーよ、もぬけの殻の私を乗せて。そうして無事にパリ行き

の列車に乗ることができました。リヨンは私にたくさんのことを教えてくれました。どんな危機的状況でも決してあきらめないこと。自ら考え、きちんと確認し、積極的に行動する。そして、どんな結果も受け入れる菩薩のような広い心を持つ。リヨンのおかげで私は強くなれました。きつと、貴社のお役に立てると思います。この小文とともに、履歴書と職務経歴書を送付させていただきますので、どうぞよろしくお取り計らいのほどお願いいたします。

履歴書の写真がどう見ても菩薩いちど手を合わせ
て封筒へ
山川 藍

10/17~
引っ越しました

2013. 10. vol.70 (2013年 10月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社 ミューズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋 7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミューズ・コーポレーション

編集後記

昨秋に富士吉田市のお客さまに発した「死ぬまでに一度は登ってみたいかったです」の一言がきっかけで、今夏、富士山を0合目から登った。それまでは登山等、決してしないと思っていたのに。ご一緒いただいたお客さまの「無理せず休憩を取りながらゆっくりいけば必ず登れます」の言葉を信じて夢中で登り、9合目からは終わることが惜しいとさえ思った。10年という節目で大切な教訓をいただいた気がする。ゆっくりでもいい、止めずに登り続けること。声に出せば一緒に行動してくれる人がいること。そして、できるはずはないと制限をかけているのは案外自分なかもしれない。処々方々に感謝です。(木戸敦子)